

ー 目標Ⅴ. 港湾景観の形成・回復に向けた技術開発 ー

●地域と調和する港湾・海岸づくり

10. 景観を考慮した構造形式の開発

～ 地域の特性を活かした魅力的な港湾景観の形成・回復 ～

■開発の背景

管内の沿岸は、現在までに津波被害を幾度となく受けており、尊い命や財産が奪われてきています。

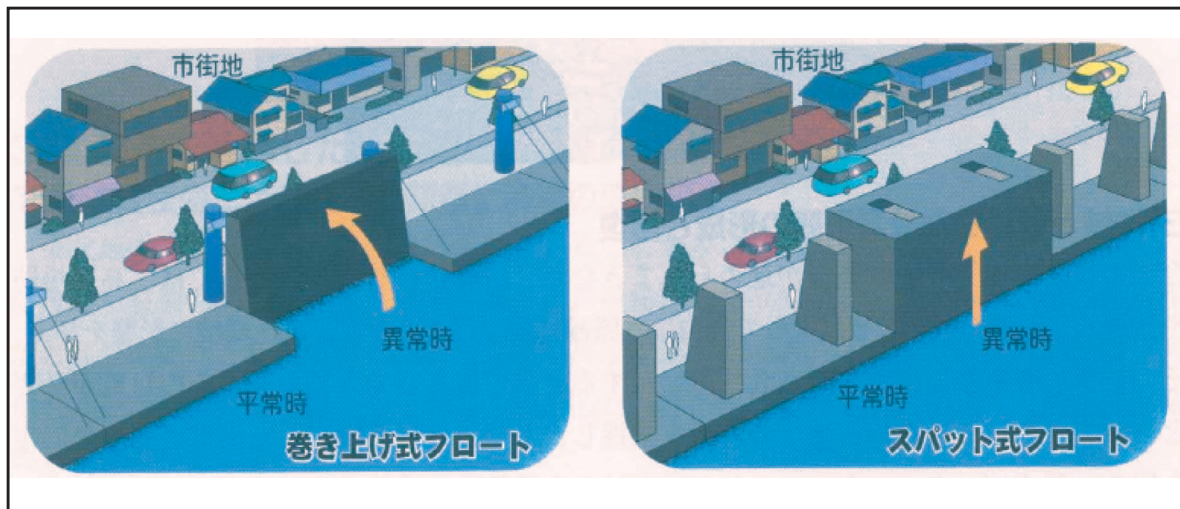
特に三陸地方のリアス式海岸は、市街地背後が急峻で海岸線の狭い平坦地に家屋や事業所が集中している地形条件から過去の津波被害が最も多いため、既往最大潮位までの防潮堤の整備が進められてきています。

しかし、地域住民にとっては、視界を遮る防潮堤や、侵入を拒むように設置された波返し・消波ブロック等によって、眺望・通風・採光性等の生活環境を著しく悪化させ、海に対する意識が薄らぐ原因となっています。

■開発の目的

地域の特性を活かした魅力的な景観形成（沿岸域住民の生活環境の改善）

■開発イメージ（海岸保全施設の例）



■開発の目標

従来の防災機能重視から、利用・景観・環境も考慮した構造形式の開発

■開発項目

- 多機能型構造の開発及び検討
- 構造上の利点、問題点の整理
- 整備費、維持管理費の比較検討
- 最適構造の選定